

こだわり散歩  
歩くだけでも楽しい 知ればなお楽しいかも

案内板・ワンポイントガイド

上水小橋から小松橋までの緑道に、玉川上水沿いの自然に関する案内板が設置されている。これは東京都西部公園緑地事務所に設置したもので全部で9種類。この案内板・ワンポイントガイドを探してみよう。(上流側から)



樹木の違い・ケヤキ	上水小橋(左岸・下流側)
これは何だ	小川橋(左岸・上流側)
コゲラと玉川上水	くぬぎ橋(左岸・上流側)
根っこの露出は何故だろう	くぬぎ橋(左岸・下流側)
樹木の違い・コナラ	水車橋(右岸・上流側)

緑道の凹凸に残る玉川上水の歴史

素掘りの堀や緑道には玉川上水の歴史が残されている。緑道を歩くとへこみがあったり、狭くなっている箇所気付く。また堀幅が大きく広がっていたりもする。空堀以後の崩落や樹木などの影響も考えられるが、その他にかかってあった分水口の跡や通船が通っていた頃の船溜りの跡、また戦時中に落とされた爆弾跡など歴史が刻まれている。

玉石積みやコンクリートブロック、木柵等で補修された箇所も多いが、堀や緑道に刻まれたこれらの凹凸等から、玉川上水の歴史



名勝境界石と小金井サクラ

大正13年に小金井桜が名勝に指定された。このとき上流側の名勝区域を示すために設置された「名勝境界石」が小川水衛所跡の左右両岸に2本ずつ合計4本残されている。このときの左岸の境界は「北多摩郡小平村大字小川新田字上水内」、右岸は「北多摩郡小平村大字鈴木新田字上1580番地」となっている。

下流側の境界は約6キロ先の境橋で、ここにも同じ境界石が残されている。

境界内の桜には東京都教育委員会名の通し番号入りの調査票が付けられている。番号は左岸の小平側から下流の境橋方向に時計回りで付けられ左岸が1～520、右岸は522～1112となっている。枯れて伐採されたりして欠番も目立つ。

小金井桜は1950年に正式名称が**小金井サクラ**となった。小金井サクラは本来は玉川上水両岸のヤマザクラであるが、最近近くの小金井公園のソメイヨシノ等を混同している向きもある。小金井地域では様々な団体がこの小金井公園のサクラ

堀の深さにもフカイ訳が……

清願院橋付近の堀は水面まで約3mと浅い、底には砂利もみられる。下流側に歩くと緑道は上り坂になり監視所付近では堀はかなり深くなる。これは国分寺崖線を登ったため、玉川上水はここから井の頭公園付近まで武蔵野段丘の尾根筋を通る。上水小橋付近では堀は深くなり、ローム層で底には砂利は無く、清願院橋付近と地層の違いは明らかである。

水路は道と違って坂を登れないので水路の勾配を小さく、堀を深くして坂を越す。段丘全体は緩やかに下っているため、堀もだんだんと浅くなる。東小川橋がもっとも深く水面まで6.8m、下流の桜橋では4.0mとなる。

清願院橋・標高 99m、桜橋・標高 79m  
標高差・・・20m 水平距離・・・6.0km

鉄道勾配標が物語る・・・尾根筋を流れる玉川上水

西武国分寺線が玉川上水を渡る鉄橋際に立っている「勾配標」は両側とも腕木が下を向いている。これはこの地点から両側とも下り坂をあらわしている。

国分寺方向 2.5  
東村山方向 3.2 (右の画像)を示している。単位は0/00でパーミルと言う。(水平方向1000mで垂



玉川上水ワンポイントガイド No. 12  
散歩ガイド (玉川上水駅から一橋学園駅)



この付近の堀は深さが6mを超える 東小川橋から上流方向

シリーズ 玉川上水ワンポイントガイド

No	テーマ
1	玉川上水の概要
2	玉川上水の分水
3	玉川上水の分水・小平編
4	玉川上水と小平周辺の新田開発
5	玉川上水の橋
6	玉川上水の水車
7	玉川上水の通船・船溜り
8	玉川上水の樹木・野草・野鳥
9	玉川上水と小金井サクラ
10	玉川上水あれこれ
11	玉川上水お勧め散歩ガイド
12	玉川上水散歩ガイド 玉川上水駅から一橋学園駅

発行 No.12 2008年3月 No1～No11発行済

発行 小平・玉川上水再々発見の会  
E-mail tamagawasaisai@yahoo.co.jp